



札幌地区
だより

TO

と

MO

も

NI

に

第48号

発行日：2014年●月●日

●発行責任者：札幌地区長 後藤義信

●発行所：カトリック札幌地区／札幌市中央区北1条東6丁目

2014年度札幌地区宣教司牧評議会の開催

2014. 5. 18 カトリック北26条教会



今年度の地区宣教司牧評議会が勝谷司教も出席して開催されました。昨年の大きな出来事は何と言っても勝谷太治新司教の誕生でした。これまで多くの懸案が、司教不在のため先送りされてきた傾向がありましたが、新司教のもとで新しく動き始めることを期待します。また、北1条教会の後藤義信神父が新地区長となり、これからの地区活動の中心として頑張ってくださいことになりました。

○勝谷司教挨拶

前任の地区長として地区宣司評の経緯について少し話します。以前は年4回の評議会が開催され、各委員会・部会から多くの報告事項があり、ほとんど聞くだけの会議で協議の場となっていませんでした。数年前からブロック制にして、実質的な協議はブロックで行い、この会議は年に1回の総合的な性格のものとなりました。ここでは、活動の総括と方針、予算・決算の審議を行うこととしました。また、この場はあくまで地区のものなので地区長が主催する会議となります。私はオブザーバーという立場で参加しています。改めて、私から皆さんにお願いしたいことがあります。拡大評議会では皆さんから要望があったカトリックセンターと小教区の適正配置などについては、次の司教が決まらなければ前に進まないということでペンディングになっていました。皆さんには、要望やビジョンを改めて協議して上げてください。実現の可否については専門家の判断に委ねていきます。これまでは、そのようなことは行われていませんでしたが、これからは専門家の意見も聞きながら検討していきます。ちなみに北1条教会敷地を利用したカトリックセンターを含む再開発について検討委員会を立ち上げ、現在保有する資源を最大限生かして、具体的な案を出してもらうよう諮問しました。また、各ブロックにおいては、これまで取り組んできた課題について改めて議論してください。

○後藤地区長挨拶

札幌地区を12年離れていました。これまで司教不在のため、山積する課題については、長いこと議論はしていても、実際に行動に移せなかったことがたくさんあると思います。そういう中で、新しい司教の下で前に進めていけると皆さんも期待していると思います。私もその役割を担っていきたくと思っていますので、よろしくをお願いします。

議長に小野幌教会の松川さんを選出し、まずブロックごとの自己紹介を行い、次に議事に入り2013年度の事業・決算報告、2014年度の事業計画・予算案が審議され、何れも承認されました。

勝谷司教は、年頭司牧書簡「司祭中心の教会から信徒中心の教会へ」で信徒が洗礼によって与えられた固有の役割を果たしていくことを求められました。2014年度の札幌地区は、その呼びかけに応えられるように宣教司牧活動を進めていきましょう。具体的には、昨年度から重点課題として取り組んでいる、宮古市への支援・ボランティア活動の推進、イースターピレッジの支援と交流、カトリック障害者連絡協議会札幌大会への協力を継続して進めます。また、従前から取り組んできている財政問題、青少年の育成、外国籍信徒との交流、札幌カリタス、病者訪問などについても引き続き検討していきます。





2013年11月9日 カトリック北26条教会

「聖書は障がいと生きづらさについてどう語るのか」

場崎 洋 神父



病気や障がいについて聖書はどう語っているのでしょうか。時代的・社会的背景の中に差別と偏見がありました。レビ記には、「重い皮膚病にかかっている者は汚れているので独りで宿営の外に住まなければならない」と書いています。聖書の時代において祭司は医者役目を果たしていました。宗教と医学は切っても切れないものとして、障がい者や病人に対して汚れた罪人としてのレッテルを貼り付けていました。宗教における偏見と差別が社会の中に蔓延していたのです。

次に試練について考えてみましょう。ヨブ記は、正しく生きていたヨブが試練をうける物語です。サタンは神に挑戦するために、神のゆるしを得てヨブに禍いを加えます。子供たちと全ての財産を失い、さらに全身がひどい皮膚病にかかっても、ヨブは「幸せをいただいたのだから不幸もいただく」と神を非難することはありませんでした。

人間は生きていくためには人生の意味を求めなければなりません。何事につけ、意味を見いだして、真実を探っていくことは生きていく上で大切なことです。「人生の質」は試練の中で培われるものです。試練は魂に刻まれる霊的日記で、人生は見えないシナリオです。わたしたちは常に幸福を求めますが、求めれば求めるほど獲得することが難しくなります。なぜならば人生の目標は幸福ではありません。それは結果にすぎません。最も大切なことは自分が召されている使命を生きることです。わたしたちは幸福でないとすぐに自分の人生を否定してしまうものです。もう一度自分の人生を語ってください。神と共に語ってください。神が何を望んで私をこの世に召し出されたかという霊的物語を語るのです。幸福とは魂が磨かれていく時間（いのち）を意味します。

イエスの時代には差別と偏見がまかり通っていました。生まれつき目の見えないのは本人が罪を犯したからか、それとも両親が罪を犯したからという偏見です。この偏見と差別は今なおわたしたちの中に棲みついています。しかし、イエスは弟子たちの質問に全く違った次元で答えを突き付けました。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである（ヨハネ9.1~4）」と言われたのです。イエスが逆にわたしたちに問いかけています。障がいを持つ人の中に神の業が現れるのをわたしたちは心の目を開いて見つめなければなりません。人間は障がい者や病人には目を背けたくりますが、逆に、心を向けることによって計り知れない神の業を知ることができるかもしれません。それを見出すためには、信仰の目が必要になります。

イエスは村々を回って神の国の到来を告げ知らせました。さて、どのように福音は広まっていったのでしょうか。エリコの町に着いたとき、バルティマイという盲人の物乞いがイエスに向かって「イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫びます。多くの人が叱りつけて黙らせようとしたが、イエスは彼を自分のそばに呼び寄せます。イエスの態度は私たちの発想を逆転させます。盲人はイエスに憐れみを乞いますが、人々は盲人とイエスの間に壁をつくります。このとき盲人バルティマイとイエスの間に大きな壁（差別と偏見）ができてしまいます。イエスは彼らのつくった壁（偏見と差別）を打ち砕き、バルティマイを受け入れます。そこに神の国の到来が起こります。バルティマイは癒され、神の国（救い）が到来します。

イエスが宴会を催すときのたとえ話があります。イエスは宴会を催すときに知人や友人ではなく貧しい人や体の不自由なひとを招きなさいと言います。なぜなら、その人たちはお返しができないからです。本来、主の食卓は健康な人のためのものではありません。しかし、健康な人だけを教会に招くことは簡単ですが、あらゆる障がい者や罪びとを招いて主の食卓を囲むとなるとどうでしょうか。おそらくわたしたちの各々の教会は混

乱を招くでしょう。参加したくないと言い出す人もいるかもしれません。しかも、障がいを持つ人はお返しができないのです。わたしたちは自分の弱さから見返りを求めたくなることが多いのです。

神の国ではわたしたちの思いとは逆なのです。主の食卓のそばに招かれるのは耳の聞こえない人、目の見えない人、体の不自由な人、そして罪びとたちなのです。そこにわたしたちが集ってひとつになるのです。この逆転の発想こそ「イエスのみことば」「イエスの食卓」なのです。ヨハネの福音書に「わたしはぶどうの木、あなた方はその枝である」と記されています。わたしたちは何かにつながっていないと生きてはいけません。理解し合える二人以上のつながりを持ちましょう。

痛みについて取り上げてみます。痛みには様々なものがあります。体の痛みから、心の痛みともいえる悩みや悲しみ、不安からくる高度のストレスなどがあります。本来痛みとは、体の病的状態を異常信号として脳に知らせ、それを回避させる警告装置のようなものです。しかし、ひとたび病的状態になると、逆に人々を苦しめます。痛み自体が病気の本質になってしまうからです。心の痛みもまた苦痛です。ストレスによる不快さが持続すれば心身が正常に機能しなくなります。不快さが短期間で解消できればよいのですが、それが持続すると、障害を受けた心身の機能の回復は難しくなっていきます。これが問題なのです。痛みは記憶され、種々の悪循環を生み出す原因となるのです。

眠れないほどの痛みを担っている人がいます。彼は不眠症に陥ります。寝返りも苦痛です。睡眠薬とモルヒネの錠剤を服用しなければなりません。痛みはその人にしかわかりません。一日一日生きていることで精いっぱいです。

イエスの言葉が聞こえてきます。

「明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労はその日だけで十分である」(マタイ6・36) それであっても苦痛があればあるほど、一日は長く感じるものです。ただ共にいること、共に交わることができること、それが救いになることを信じています。

わたしたちは神から選ばれ、愛の宴に招かれています。わたしたちが想像する宴は、華やかで煌びやかな人生を希求するものであるかもしれません。しかし想定外もおきます。この招きに対して、肯定も否定も可能です。いずれにせよ、わたしたちは神の招きに対して選択していかなければなりません。その選びによって神はわたしに違った形で居場所ときずなを与えてくれます。

「生きづらさ」とは何か。生きづらさとは、つながりがないこと、絆がないことです。生きづらさとは、自分自身の居場所がないことです。



札幌地区交流会 おやじの会

2014年1月12日～13日 カトリック月寒教会

今年のおやじの会は月寒教会で行いました。これまではホテルで1泊2日の日程でしたが、より参加しやすいようにと教会での開催にしました。それが功を奏したのか、今回は勝谷司教、上杉神父、佑川神父、新海神父、マイレット神父、信徒46名と例年を大幅に上回る参加者でした。はじめに勝谷司教が講話を行い、質疑応答、討議、交流会、ミサで日程を終えました。

司教講話は、年頭司牧書簡として発表した「司祭中心の教会から信徒中心の教会へ」の内容に沿ったお話でした。このテーマは、勝谷司教が以前から取り組んできたことでもあり、過去の経験も踏まえてこれからの教会の展望と信徒の役割について話されました。討議では、カトリックセンター、小教区の統廃合、地区共同体などについて意見が交わされました。その後、場所を替えての交流会で親睦を深めました。初対面の人も多く、大いに盛り上がりました。思いがけない出会いもあり、同じ道を進む者として互いの信頼関係を育むことの大切さを感じました。



真駒内教会献堂50周年記念講演

カトリック多摩教会主任 晴佐久昌英神父

○教皇様と第2バチカン公会議

教皇フランシスコの最初の祝福の言葉が「ボナセナーラ（こんにちは）」でした。とても庶民的な方です。イエス様も壮麗なエルサレム神殿ではなく、ガリラヤの片田舎で「よう、みんな、大丈夫だ。神様はあなたを愛している。本当だ。あなたはこれから永遠の命に生まれるのだ」と貧しく希望のない生活をしていた人たちに語りかけたのです。これがキリスト教のはじまりです。キリスト教とは、神様が小さな私に親しみをもって直接話しかけてくださることを教えています。教皇様は本来のキリスト教のあるべき姿を取り戻してくれました。私もそうありたいと思うし、皆さんにもそうあってほしい。



教皇様はバチカン神殿に住まず、コンクラーベのために滞在した宿舎で暮らしています。そこからバチカンの執務室に通い、警備の衛兵にも気軽に声をかけています。これまでは考えられないことです。教皇様が声をかける時が人間同士の信頼関係が成立する瞬間、それは神様が与えてくれた最もすてきな瞬間、人と人とが真心から通じ合う瞬間です。それがイエス・キリストの秘密で全世界が求めている秘密です。教皇様はその秘密をわかりやすく示してくださいます。

一般謁見でも丁寧に人々の間を回って、子供に声をかけたり、おばあちゃんと話したり、何万人いても変わらずに対応します。イエス様がそうだったから普通にやっています。これがキリスト教です。あれを見たら、みんな教皇様を好きになってしまいます。人気はうなぎ上がりで一般謁見はすごいことになっています。雨が降っていても、傘もささずにはずぶ濡れになって人々を祝福しふれ合っている。「どうしてもあなたの所に行って挨拶したい。話したい」という気持ちが伝わります。

教皇様が「神父は司祭館にこもってはいけません」と言いました。自ら実践しているので神父たちはたまったものじゃないですよ。教皇様がこうだから、神父もふんぞり返っているわけにはいきません。勝谷司教も司祭館にこもってはいられません。

イエス様はこういう方であったことをイメージしてください。そして、あこがれてください。ここにキリスト教の秘密があります。「これを守れ、これを信じろ」という押しつけではなく、どうしてもあなたに会って「あなたは神様から愛されている」「私たちは神の下に兄弟なのだ」「あなたと一緒にいることは素晴らしい」と。神様の愛をわかってもらうというよりも、キリストを宿した者として近づいて伝えることをやってほしい。

教皇様は神父に「司牧者であってほしい」「直接会って、心を開いて信頼関係をつくることにより神様が働く」と言いました。私もそうありたいと思っています。今日みなさんと信頼関係をつくりたい。神様がみなさんを愛していることをどうしても伝えたいという思いにかられています。みなさんもそれをやりましょう。イエス様を宿しているのだからできますよ。出かけて行って相手にふれて信頼関係をつくれれば、あとは神様が働きます。何もする必要はありません。話す言葉がなかったら手を握るだけでいいのです。難しいことを話さなくても、神様があなたを愛しているということが自分を通して伝わります。

私が神学生の時にヨハネパウロ2世が来日しました。そこから、ずっと私にとって教皇様でした。「空飛ぶ教皇」と呼ばれ、「みんなに会いたい。みんなに語りかけたい」と駆けずり回り、最後はパーキンソン病という病を背負っても、みんなの前に出てきて手を上げていました。あのふるまいがイエス・キリストです。イエス・キリストを遣わした神様の思いです。秘跡です。目に見えるしるしです。いくら神様が人を愛しても、イエス・キリストが現れなかったら伝わらなかった。キリストの教会の秘跡がなかったら、もはや私たちに救いの喜びがあるはずがないのです。神様の愛、イエス・キリスト、教会の秘跡、全てつながるのです。そのことをヨハネパウロ2世から教えられました。あの方は、どんな試練にあっても、どんなひどい悪と向き合っても、わずかな試練だと思っていました。神様の栄光の世界の輝きの素晴らしさを持ったら、どんな試練もとるに足らないものです。あの方の姿には、イエス様がこの罪深い世の中にわざわざ来てくれたことの本質があらわれています。

あの方と一緒にヨハネ23世も列聖されました。この教皇様は、それまで教会の奥の院でふんぞり返っていたキリスト教会を表に引っ張り出しました。それは聖霊の働きでした。ワンポイントだと思われていた「おじいちゃん教皇様」が「公会議を開く」と言ったのでみんなびっくりした。教皇が開くと言ったら開かなければな

らない。第2バチカン公会議のおかげで神殿の奥にいたイエス様が出てきて「神の愛はここにある」ということをみんなにわかるようになった。イエス様は公会議そのものです。ヨハネ23世は公会議中に亡くなりましたけど、公会議の精神はパウロ6世、ヨハネパウロ1世、ヨハネパウロ2世へと引き継がれていきました。ヨハネパウロ2世が今の開かれた教会を礎として創られました。あの教皇様がいなかったら、第2バチカン公会議がなかったら私は司祭になっていなかったでしょう。もし、なっているとしても今のように神様の愛の中で生き生きと福音を語ることができていたとは到底思えません。

○新しい出発の時

皆さん全員天国へ行きますよ。間違いありません。信じてください。これは、なかなか分かってもらえないのです。いろんな講演会で工夫して話しても、うまく伝わらないのです。全ての人は神様に愛されて、望まれて生まれてきたのですから、神様のみもとに招き入れられるのです。当たり前の話ですが、それを知らないことが罪なのです。罪があるから滅びるのではなく、救われていることを知らないことが罪なのです。神様から離れた状態です。世の中では自分が努力しないと報われないと思っていますが、私たちが究極的に求めているのはこの世のことではありません。神様が与えてくださる天の宴です。自分が何を行ったかではなく、神様が用意してくださる栄光の世界に私たちは招かれて生まれてきました。今は準備期間で、辛いことがあり試練もありますが全て産みの苦しみです。

以前は「教会の外に救いなし」と言っていましたが、第2バチカン公会議では「教会の外に救いはないが、全ての人は教会の内に属している」と教会が全ての人の救いのためにあると言い出しました。あらゆる人にかかわっていかねば教会ではありません。私は、一番辛い思いをしている人が一番先に福音を聞くべきだと思うから、いつも呼びかけています。精神的に病んでいる人にぜひ福音を聞いてほしい。

去年のクリスマスが近づいた頃、聖霊の促しがありました。クリスマス会ができない人たちのためのクリスマス会をやろう。それは元気な人たちの中に入っていけない人たち。みんなが喜んでいる中で自分だけが落ち込んでいると感じる人たち。そんな人たちとクリスマス会をやろう。だから、はっきりと「心の病気で苦しんでいる人のためのクリスマス会」として、ネットや口コミで広げました。多くの人が賛同して手伝ってくれました。料理を用意する人、門の前まで来て迷って帰ろうとする人を連れてくる人など。当日は、たくさんの方が集まりました。「こういうことをはっきり書いているから来ることができた」「無理だと思ったけど門の前で“どうぞどうぞ”と言われて入ることができて本当によかった」お互いに病気の話で盛り上がり、「ここは天国だ」とみんな口々に言って、「もう帰りたくない」と泣き出す人もいました。

こういう話を聞くと皆さん感心しますが、これが珍しいことなら死んだ教会なのです。理由があって教会に来られない人、教会を知らない人はたくさんいます。にぎやかにクリスマスパーティーをやっている教会の外を暗い心で落ち込んでいる人が「こんな華やかな世界は自分には無縁だ」と通り過ぎていくとしたら、何のための教会なのかということです。「本当にあなたと会えてよかった」「あなたと一緒に祈れてよかった」そうして天国の宴の始まりであるミサに人を招かなかつたら、死んだ教会なのです。もはやキリストの教会ではありません。

今日はぜひ皆さんに「私はもう救われている」という喜びを知ってもらいたい。そして、その喜びから生まれてくる希望や意欲でキリストの教会を生き生きさせてほしい。福音を語る場所に人は集まってきます。キリストの教会はまだ始まったばかりで、第2バチカン公会議でやっと一里塚くらい。教会はこれから本領を発揮します。私は、ヨハネパウロ2世が開いた第三千年紀がカトリックの時代、キリスト教の時代になると固く信じています。私たちが福音を語る喜びを神様が与えてくださっています。真駒内教会も50周年。準備期間が終わり本番の始まりです。さあ、出発しましょう。



札幌地区の在世会を



在世フランシスコ会（OFS）の紹介 ORDO FRANCISCANUS SAECULARIS

800年の歴史があります。

聖フランシスコは、1208年頃、福音に従って生きるように神から促されました。やがて仲間ができ、男性修道会として1209年に小さき兄弟会（現在は三つに分派）、女性修道会として聖クララ会が誕生します。既婚者の中にも聖フランシスコの精神に従って福音を深く生きることを望む人たちがおり、こうした動きが「回心して生きる兄弟姉妹」、現在の在世フランシスコ会へと発展します。在世において聖フランシスコの精神に従って福音を生きる人たちは、1211年頃に存在したと言われますが、最初の会則が認可されたのは1221年です。現在使用する会則は、教皇パウロ六世によるものです。長い歴史の中、「回心を生きる兄弟姉妹の会」からは、誓願によって共同生活を送る会も生まれ、律修フランシスコ第三会として多くの修道会が存在します。

組織について

これらの会は、フランシスカン・ファミリーとしての国際組織です。国際兄弟会は、110か国で100万人の総会員数にのぼります。日本在世フランシスコ会は、65の各地兄弟会があり、8つの地区兄弟会で組織されています。

北海道地区兄弟会は、札幌、帯広そして釧路の兄弟会で組織されています。



活動について

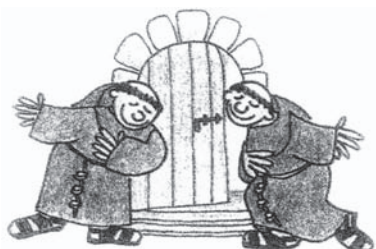
北海道地区兄弟会は、札幌兄弟会を中心に活動しています。

主な活動は、1月、9月の講演黙想会を多くの信徒の皆さんに声をかけ実施しております。また小教区の活動に協働しています。札幌兄弟会は、毎月第2日曜日午後1時半から4時まで（原則として）北11条教会で集会（例会）を行っています。

講演黙想会は、北11条教会で行っています。

アシジの聖フランシスコと共にキリストへの道程を歩んでおります。教会に奉仕し、集会に参加して兄弟姉妹との交わりを深めます。私たち兄弟姉妹は、日々の回心を通して信仰を深め、愛をもってすべての人々に進んで平和の担い手になり福音を生きることに努めています。

聖フランシスコに関心のある方々は、どなたでも参加できます。どうぞ 見学にいらして下さい。お待ちしております。



日本在世フランシスコ会
全国兄弟会
北海道地区兄弟会
札幌兄弟会 山下 勇（文責）

紹介します



小さな共同体の30周年のお知らせ 跣足カルメル在世会北海道共同体



ご復活おめでとうございます。

このたび「ともに」の編集員さんからお声をかけていただいて、初めてご挨拶させていただきます。カルメル会と言えば、イエズスの聖テレジア・十字架の聖ヨハネ・幼いイエスの聖テレジアが有名です。北海道では伊達女子カルメル修道院・十勝女子カルメル修道院が囲いの中の隠遁生活の祈りで教会を支え、チョコレート・クッキー・聖具や手作りの小物などでおなじみですが、同じ修道家族に属する小さな共同体「跣足カルメル在世会北海道共同体」をご紹介します。

◆カルメル会について◆

12世紀後半、イスラエルのカルメル山にあるエリアの泉の近くに聖母マリアを崇敬する人々が集まり、隠遁生活を始めたのがカルメル会の始まりです。13世紀、聖地へのサラセンの侵入によりヨーロッパ各地に移り、修道生活を続けました。カルメル修道者と同じ霊性を生きたい望みを持った人たちのうち、社会や家庭での生活を続けながら祈りの精神を生きたのが在世会の前身となりました。16世紀に、スペインのイエス聖のテレジアによって改革され、跣足カルメル会、と呼ばれるようになりました。現在、男子カルメル会、女子カルメル会、在世会の三者から成り立っています。



◆跣足カルメル在世会北海道共同体◆

跣足カルメル在世会は、社会や家庭など自分の置かれた場で生活しながら、カルメル霊性と使命を生きるように召されている信徒の集まりです。共同体の集会や黙想会、研修会などへの参加を通してカルメル霊性である祈りの生活を深めていきます。日本の会員数は約400名、全国9か所に共同体があり、世界的には4万人の会員がいます。

北海道共同体は1984年11月18日東京共同体から独立し発足しましたので今年30周年を迎えます。2014年3月31日現在、会員数は誓願者20名、接触期間者2名の小さな共同体です。小さいけれども全世界のカルメル家族とつながっています。

2015年のイエスの聖テレジア生誕500年を迎える準備として、4年前から全世界のカルメル会員と心を合わせ、聖テレジアの著書「自叙伝」「完徳の道」「創立史」「霊魂の城」「小品集」を毎月の集会で再読しています。集会では祈りと分かち合いを大切に、付司祭のご指導をいただいております。毎年花川マリア院の御好意をいただき2泊3日の黙想会を行っています。今年は10月11日（土）～13日（月）。

7月19日（土）～20日（日）には十勝カルメル会への巡礼を計画しております。また30周年記念誌と取り組んでおります。

◆在世会会員の生活◆

日々の生活を神とともに生きるようにつとめ、祈りによって教会と全世界の人々に奉仕します。沈黙の祈り（念禱）の時間を毎日特別にとり、共同の祈りとして「教会の祈り」とをなえます。人々の救いのために自分の生活すべてをキリストと共に捧げることを努めます。

カトリックの洗礼、堅信を受けている方で関心のある方は、どうぞご連絡くださいますようお願いいたします。



跣足カルメル在世会北海道共同体 堤 邑江（連絡先 011-723-2747）



2014年度 札幌地区行事予定表 (白丸=教区行事です 4/23)

No	行事名	期 日	会 場	実行委・作業部会	目 的	対 象
1	札幌地区宣教司牧評議会	5/18(日) 14:30~	北26条教会	事務局	2013年度の総括と決算 2014年度基本方針と予算	地区評議員
2	講演会	5/25(日) 14:00~	北1条教会	中央協議会	テーマ「現代にひびく高山右近の靈性—揺るぎない信仰に根ざした生涯」 講師 列聖列福特別委員会委員長 大塚喜直 京都司教	
3	講演会	5/31(土)	北26条教会	社会委員会 正義と平和委員会 ピース9会	「福音の原点から平和を考える」 ~戦争できる国へと突き進む日本の中で~ 講師 大阪教区 松浦悟郎補佐司教	信徒 一般
④	札幌教区宣教司牧評議会	6/7(土)		教区行事		地区代表
5	シリーズ人権フォーラム	6/28(土) 14:00~	聖ベネディクトハウス	社会委員会	「恵庭OL殺人事件」再審をめぐる 講師 伊東秀子弁護士	
6	地区交流会 女性の集い	7/12(土) 10:00~15:30	北26条教会	女性の集いWG	地区内の女性の集い(気楽に交流) 「あなたは どう思いますか?パート5」 講師 北26条教会主任司祭 場崎 洋神父	女性信者 司祭、修道者 一般
⑦	合同墓参 円山墓地	7/13(日) 14:00	円山墓地	教区行事	14:00~ 当番円山教会	
⑧	第1回ボランティア(サポーター)研修会	7/13(日) 10:00~	藤女子大学	障がい者と共に歩む札幌大会実行委員会	障害の理解と会場の理解 講演「労働と奉仕 ~聖書に基づいて~」 講師 場崎 洋師	
9	典礼奉仕者研修会				集会祭儀などの司式者研修	
10	平和講演会	8/9(土) 14:00~16:00	北11条教会	平和旬間実行委員会	講師 浜 矩子氏	
⑪	カトリック高校生・夏のキャンプ			カト高 青少年委員会	カトリック高校生会主催の夏のキャンプ	高校生
⑫	アジア・ユース・デー(AJD)	8/10(日)~ 17(日)	韓国		教皇フランシスコも訪韓 8月14日~18日	
13	平和祈願ミサ ・平和行進	8/15金 18:00~ 19:10~	北1条教会 大通公園	平和旬間実行委員会	平和祈願ミサ 司式 勝谷太治司教 平和行進 北1条教会~大通公園 プロテスタント教会との交流	一般 信者
14	侍者研修	9/27土 15:00~	光星高校体育館	侍者研修WG	侍者の研修と奉仕を通して交流を深める (仲間づくり)1泊研修(北11条教会)	
15	札幌地区使徒職大会	9/28(日) 開場8:30~	光星高校体育館	円山教会	信仰者として、障がい者とともに歩むために 講師 勝谷司教、カ障連事務局長 田中実氏	
⑬	国際デー	10/5(日)	北1条教会	教区行事 うえるかむはうす 実行委員会	多国籍の人々との交流 ミサと交流会	
17	札幌地区交流会 おやじの会	10/12(日)~ 13(月)	北26条教会	おやじの会WG	札幌地区の男性信徒(おやじ)が集い、情報交換と親睦を深める(1泊)	
18	合同墓参	10/19(日) 14:00	白石墓地 里塚墓地	教区行事	白石墓地 当番:北1条教会 里塚墓地 15:00 当番:小野幌教会	
⑱	日本カトリック障害者 連絡協議会プレ大会	10/26(日)	藤女子大学新館	障がい者と共に歩む札幌大会実行委員会	プレ大会	
20	シリーズ人権フォーラム	12/ 14:00~16:00	聖ベネディクトハウス	社会委員会	未定	市民 信者
⑳	高校生エクスポート	1/ ~		教区行事		
22	非暴力平和旬間	1/15(木)~ 30(金)	聖ベネディクトハウス	社会委員会・正義と平和委員会	未定	一般 信徒
㉑	青年エクスポート	3/		教区行事	現地でホームステイをしながら、交流する	青年
㉒	カトリック高校生練成会	3月下旬		協力:青少年委員会	全道カトリック高校生の練成会	高校生

企画推進会議 4/24 5/15 6/12 7/10 8/21 9/11 10/9 11/13 12/11 1/29 2/26 3/13 (18:00~) 原則第二木曜日

使徒職大会当番順 2014年:円山 2015年:北26条 2016年:月寒 2017年:真駒内 2018年:小野幌・大麻
2019年:手稲・花川 2020年:北1条 2021年:北11条 2022年:山鼻

合同墓参白石墓地 2014:北1条 2015:北11条 2016:山鼻 2017:北26条 2018:月寒

祭具等は司教館(事務局)が持参 円山墓地は円山、里塚墓地は小野幌

全国大会 2015年 日本カトリック障害者連絡協議会札幌大会 8/22(土)・23(日)

要理担当実務者研修

典礼奉仕者研修会 集会祭儀や臨時聖体奉仕者等の研修